

ニュージーランドに移殖した 魚類の現況について

Introduced fish found in New Zealand

訳 疋 田 豊 彦

南半球にあるニュージーランドは、日本とほぼ同じような緯度であり、気候、風土等に多くの類似点があるといわれている。これはニュージーランドから送ってきた年報に発表されていた報告である。

1. サケ類—Salmon

北太平洋水域には5種のサケ類が棲息している。海洋における生活が終わった後、産卵のため河川に遡り、産卵後はすべて死んでしまう。しかしながら大西洋サケ (Atlantic Salmon) はふつう産卵後もなお生き残っている。太平洋サケの成魚が淡水中で餌をとることはないという。

ニュージーランドでは3種のサケが棲息しており、その2種は太平洋サケ (マスノスケとベニサケ)、他の1種は大西洋サケである。

1) ベニサケ (*Oncorhynchus nerka*): 北アメリカ太平洋沿岸から移殖)。

ニュージーランドではオアウ湖(Ohau)だけに限られ、降海していない。この湖産の魚の体重は1½ポンド以下である。

2) マスノスケ (*Oncorhynchus tshawytscha*): 北アメリカ太平洋沿岸から移

殖)。

マスノスケはニュージーランドの主要河川に移殖された。しかしながら、結局現在は南島のオタゴ州のクルザア川 (Cultha) からマールボロー州のワイラウ川 (Wairau) までの東海岸の数河川および西海岸のオカリト水系だけに棲息している。小さな群は時に両島の他の水域に発見されることがある。陸封魚、(海に降らない) はカニエリ (Kanieri) ヘロン (Heron)、コーラアリツヂ (Coleridge) 等の数湖沼で見られる。

次の特徴がマスノスケを区別するのに役立つ、すなわち (1) キュウリのような香り (降海性ワカサギの如く)、(2) 口の内側が黒味がかかる (マスには決して見られない)、及び臀鰭の形と長さ、基部の長さはマス類より長い等である。

3) 大西洋サケ (*Salmo salar*—英国より移殖)。

ニュージーランドでは南島のワイアウ川 (Waiau) 水系にだけ棲息しているが、最近になりクルーザア川からも採捕されている。この魚はテ・アナウ湖 (Te Anau) で釣師によって捕られており、ワイアウ河口にも降っておるが、海で捕られるものは極くわずかである。そのためかヨーロッパ水域の降海型に見られるような大型なものは知られていない。

2. マス類—Trout

ニュージーランドには2種類のマスが棲息している—ニジマス *Salmo gairdneri*—北アメリカ太平洋岸から移殖、およびブラウンマス *Salmo trutta*—英国から直接、幾らかはタスマニヤ経由で移殖された。

ブラウンマスは北島のホーク湾 (Hawke Bay) とニュー・ブリマウム (New Plymouth) をむすぶ線の南の水域に主に棲息する。この線上の水域はニジマスとブラウンマスが混棲しているが、一方、より北部水域にはニジマスが優勢である。

ブラウンマスはふつう晩秋あるいは初冬に産卵し、ニジマスは前者より幾分遅い。より北部のある地方ではニジマスの産卵は夏から秋まで連続している。

ブラウンマスとニジマス成魚の相異は形態的相異(鱗数、鰭条数等)はほとんどないが、色彩と斑紋では明らかである。ニジマスの河川棲息型は暗灰色で、各側の頬部から尾部まで赤色帯を持つ。ブラウンマスの河川棲息型では一般に褐色味がかかった黄色で、赤色帯はなく、側面には黒色斑点がまじつている赤色斑点がある。河川に棲息するマス類の地色は、海産と湖沼産のものとは著るしい違いがあ

る。後者の2つでは両種共暗褐色色彩を欠いて銀白色になる。ニュージーランドの多くの河川、特に南島の東岸ではブラウンマスは自由に降海している。

ニジマスは元は降海型(ステールヘット)から由来したように思うが、この国では海に降りまた海から帰って来るというデータは、ほんのわずかしかない。

ニジマスの餌料はいろいろの形の水棲昆虫、軟体動物、小形魚類および数種の植物である。ブラウンマスは植物を食べないということをのぞけばニジマスと同じような餌をとっている。

3. イワナ類—Charrs

ニュージーランドには2種類のイワナが棲息している、すなわちカワマスおよび五大湖マスである。この2種の脊面には「むしうい、斑紋を持つていこと、ブラウンマスおよびニジマスと容易に識別されるのである。またマス類とイワナ類幼魚は口腔内上部の歯形によって区別することができる。

1) カワマス (*Salvelinus fontinalis*—北アメリカより移殖)。

この魚を風土馴化させるために、ニュージーランドではいろいろの計画を実行して見たが、数河川をのぞいて、ほとんどすべての水域では失敗してしまった。今日カワマスはカンタベリー州 (Canterbury) とネルソン州のロトルア地区 (Rotorua) のある水域に見られるだけである。

この魚はニジマスの餌料と同じようなものをとっている。カワマスは釣の好対象物である許りか食卓魚としてもすばらしいものと考えている。

2) 五大湖マスあるいはマツキナウマス

(*Cristivomer namycush*—北アメリカから移殖)

この魚はカンタベリ州のピアソン湖 (Pearson) に見られ、また恐らくグラスソメリア湖 (Grassomere) にも棲息しているだろう。

全体の色彩は背面が橙緑色、体側は淡く、腹側は汚れたような銀色を呈している。この魚は北アメリカ五大湖が原産地で、そこでは60ポンドの体重に達し、水深の深い処に棲息し、闘争力にとぼしい。

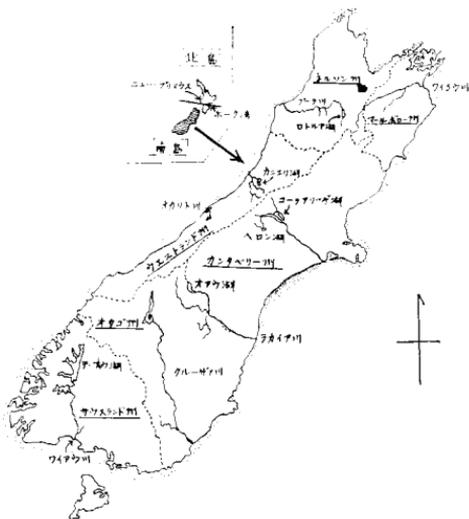
3) 淡水産スズキの類 (*Perca fluviatilis*—英国より移殖)。

海岸近くの湖沼およびこれら湖沼に注ぐ河川にふつうに見られる。釣のすばらしい対象物であり、また食卓魚として広く海外に知られている。しかしニュージーランドでは余り一般には普及されていない、マスの棲息する水域では可成り大きくなるというので有害であるという論もないわけではない。一年の寒い候に砂礫の中にあまり多くない卵を産むサケ、マス、イワナと異なり、この魚は水中に沈んでいる植物にリボン状に卵をつける多産卵魚である。

4) フナまたは金魚 (*Carassius* spp.—英国より移殖)

ニュージーランドのゆるやかな流れの河川および湖のどこでも見られるものであり、いろいろの金魚があるので、ヨーロッパにふつうのコイとは同じ属には入らないであろう。これらきれいな色彩の魚は観賞的価値だけで、釣および食卓魚にはほとんどなり得ない。あるいは地方では内陸産水鳥類の餌になっている。

5) タツプミンノー (*Gambusia affinis*)



南島の見取図 文中に出てくる主な河川湖沼を示す

これらの魚は、現在ニュージーランドではそれ程広い分布をしているとはいわれないが、北島の数池沼では非常に沢山棲息している。この魚は多産魚である。餌料として好んで蚊の幼虫 (アメンボ) を食う。英名のモスキート・フィッシュはこれから付けられた。そのようなわけで、これら昆虫撲滅のために亜熱帯地方の国々に広く移殖され利用されたのである。雌魚はふつう2½インチの体長になるが、雄は小さく1½インチ程度である。タツプミンノー、金魚、この地方原産のホワイトベイト等の魚類は簡単な水槽で容易に飼育することができる。

(国立ふ化場調査課員)